

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4290100231
法人名	医療法人財団 健友会
事業所名	グループホーム 星取
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市星取2丁目2-43 (電話) 095-811-3510

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 3月 21日	評価確定日	平成20年6月5日

【情報提供票より】(平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋造り	
	2 階建ての	2 階 ~

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	10,800 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大浦診療所、上戸町病院、野島歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成12年4月、母体医療機関の5階に定員5名で開設したホームであったが、地域の強い要望から母体他のグループホームとともに合併・分散し、“星が取れるくらい夜空が美しい”と例えられるこの町に引越しをし、平成19年5月1日新たに開設した。前ホームからのご入居者に、4名が徐々に加わり、職員も管理者他2名が前ホームからの職員で、法人他ホームからの職員や新しい職員が加わり、次第に新しいホームができあがってきた。地域の方の積極的な協力と職員の努力で地域にも溶け込んできている。日々、ご入居者と一緒に家事、炊事をする中で、家事、昔の話(生活・地域の様子等)、毛糸編み等を教えていただいている。職員も、ご利用者の得意分野のことを、積極的に「教えてください」とお願いするように努めている。また、ご入居者同士、編物の糸の立て方・繋ぎ方を教えあったりされている姿に職員は感動している。職員があたりまえに思うケアに対しても「ありがとう」「兄ちゃん、やさしかねえ」などご入居者から励まされており、今後も、職員は、ご入居者全員が笑顔で過ごせるよう、寄り添っていきたくと考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回、新しく開設して、初めての外部評価である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者(事務長)・管理者は評価の重要性を強く認識し、管理者が各職員に自己評価を記入してもらった後、管理者が一人ひとり個人面接を行い意見をまとめた。自己評価は難しかったという職員の意見もあったが日々のケアを振り返り、改善点や個人の目標や課題が明確になった。それを基に「笑顔箱」を設置する等具体的な対応に取り組み始めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は開設以来2ヶ月に1回開催しており、前回会議の意見に基づき事業所が行ったことを報告し、会議で取り上げて欲しい要望をお聞きしたり、次回の開催予定をお知らせして、会議に積極的に参加頂けるようにしている。ご家族や地域の建設業の方から「非常階段はスロープ式が良い」とアドバイスを頂いたり、地域包括支援センターの方から「ノロウイルス感染の状況報告」があり、マスクを玄関に設置するなど、いただいたご意見を運営に活かすように努め、サービスの向上に繋げている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族にも行事と一緒に参加して頂いて暮らしぶりや健康状態を伝えたり、面会時やホーム便り、毎月の「日常の様子」のお便り、電話等で報告を行っており、「日常の様子」をきっかけにあまり連絡の無かったご家族からもご意見を頂くことができた。意見箱を設置したり、公的な相談窓口や外部の相談先を重要事項説明書に記載し説明したり、「気になったらなんでも話して下さい」と常々声かけして、ご家族が意見・不満・苦情等言って頂けるよう積極的に働きかけている。まだ事例は無いが苦情専用ノートの書式も作成しており、ご意見を頂いた時は「報連相ノート」「個別記録」等に記録を残し会議で報告し対応策を職員を含めて話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設前、土地を探している段階から地域の方も協力的であり、開設後まもなく自治会に加入し、民生委員の方に星取夏祭りでの踊り方をご指導いただいたり、餅つきなど地域の行事にご入居者と共に参加している。自治会長にも、地域の一員として参加したい意思を伝えている。日々挨拶を行い「遊びに来て下さい」等と声かけていくうちに近所の方が畑を作って頂いたり、お花や手作りの人形を持ってきて頂いており、交流が深まっている。学生の実習の受け入れや保育園児の訪問を受けたり、行事や外出時には近所の方にボランティアに来て頂いている。開設前、管理者は近隣地域の2箇所の公民館やホーム内で1時間程、認知症の理解を得る啓蒙活動を行ったり、ホーム便りを地域の10数軒にポスティングし地域に向け情報を発信している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体の医療法人は、もともと地域に密着した医療を行う方針で設立されている。平成12年開設時の前グループホームの理念を引き継ぎ、「その人らしい普通の暮らしができるように、町の住人として社会に参加しながら穏やかな暮らしが送れるように支援する」ことを掲げている。また、「どなたでも気軽に寄れるホーム、買い物・散歩等の外出の積極的支援、畑・花栽培に取り組み自然と触れ合う場の提供」という具体的介護理念を、職員全員で作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は、毎朝の申し送りの中で、理念に基づくケアができていかどうか確認しており、日常の「報連相」ノートなどで検討し合っている。毎月1回のケアカンファレンスや法人主催の研修の場でも理念に通じる話を年1回事務長が行なっている。職員は理念に基づいたケアを行っており、良い実践・気になる対応・ご入居者、ご家族からの言葉等は、ご入居者・職員が笑顔になれる「笑顔箱」に入れて共有し、理念を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、星取夏祭りや餅つきなど地域の行事にご入居者と共に参加し、日々、地域の方に「遊びに来て下さい」等と声かけしている。近所の方に畑を作ってもらったり、お花や手作りの人形を持ってきて頂いており交流が深まっている。学生の実習や保育園児の訪問を受けたり、外出時には近所の方にボランティアに来て頂いている。開設前、管理者は近隣地域の2箇所の公民館やホーム内で1時間程認知症の理解を得る啓蒙活動を行ったり、ホーム便りを地域の10数軒にポスティングし地域に向け情報発信をしている。	○	日頃、地域の方から多くの支援を頂いており、地域の方々のために何か還元したいと日々考えている。併設のデイサービスと共に5月に1周年記念の催しを開き、地域の方もご招待したいと考えている。さらなる地域の方との交流が深まることが期待でき、今後の、取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成19年5月開設のため、このホームとしては初めての外部評価である。運営者(事務長)・管理者は評価の重要性を強く認識し、管理者が各職員に自己評価を記入してもらい個人面接を行い意見をまとめた。自己評価は難しかったという職員の意見もあったが、改善点や個人の目標や課題が明確になった。それを基に「笑顔箱」を設置する等具体的な対応に取り組み始めている。	○	自己評価の後、建設的な意見が出て課題が明確化されたため、薬、医療、介護技術等図書を整備他今後更に取り組みで行きたいと考えており、質の向上に向けた取り組みを今後も期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者・ご家族・地域の方・地域包括支援センター職員・事務長、管理者、デイサービス管理者をメンバーに2ヶ月毎に会議が開かれている。積極的に参加頂けるよう前回会議の意見に基づき事業所が行ったことを報告し、会議で取り上げて欲しい要望をお聞きしたり、次回の開催予定をお知らせしている。ご家族や地域の建設業の方から非常階段はスロープ式が良いとか包括センターの方からノロウイルス感染の状況報告があり、スロープについては来年の予算に組み込む、感染対策についてはマスクを玄関に設置し対応してサービスの向上に繋げている。	○	会議の内容について口頭で職員には伝えているが、議事録として十分に残せていない。職員もメンバーに加え、発言の場を設けながら書記として入っていただくなど、記録を残す工夫と合わせて、職員の参加による、会議の活性化も含めた取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口にて社会制度の相談や、保健所へ感染症対策について報告し指導を受けている。地域包括支援センターにも医療依存度の高くなる方の相談や看取りについて取り組まれている他事業所の紹介をして頂き、親身になって相談にのって頂いている。ホーム便りは毎月郵送しており、今後も継続したいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の報告と合わせて、ご家族にも行事と一緒に参加して頂き、ボランティアでケアに携わって頂く中で暮らしぶりを見て頂き報告している。ご家族により、知りたい内容が違ふ為、ホーム便り共に、ご入居者毎に個別に職員が情報を記入したものを管理者がパソコンで打ち、バイタルサイン等、健康状態の記載のあるお便りも、毎月全ご家族に送付している。必要時は電話連絡を行っている。金銭管理については出納帳を見て頂き、請求書・領収書をお渡ししサインを頂いている。職員の異動についてもお便りにて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、公的な相談窓口や外部の相談先を重要事項説明書に記載し説明したり、「気になったらなんでも話して下さい」と常々声をかけて、ご家族が意見・不満・苦情等と言って頂けるよう積極的に働きかけている。まだ事例は無いが苦情専用ノートの書式も作成しており、ご意見を頂いた時は「報連相ノート」「個別記録」等に残し会議で報告し対応策を職員を含めて話し合っている。	○	5月に無記名のアンケートを実施予定であり、今後も、年1回継続して行い、ご家族の声を聞いていきたいと考えている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、ご入居者との馴染みの関係を大切にしながらも、ホームの質の維持のため馴れ合いになるのを避けるため、必要時、異動を行う場合もある。定期異動はしない方針である。勤務条件の改善として、調理専門のスタッフを配置したり、休みの希望には極力応じ、正職員以外は契約社員とし、職員組合に入っており、職員の親睦のために食事会、旅行等福利厚生を整えている。管理者が職員と個人面接を行い相談にのっている。離職者は無く、新規職員へは情報提供・指導を管理者が充分行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、毎月定期的に行われており、法人内他事業所と合同で年1回の事例検討会を行っている。管理者・職員は、認知症介護実践者研修・県・市主催の研修会・事業者協議会主催の研修会等に参加している。外部研修に参加しなかった職員にも共有できるように、参加した職員がケアカンファレンスで伝達研修したり回覧している。事務長・管理者が本人の希望・達成目標を把握して職員毎の研修計画を作成しており研修案内を行い、職員はスキルアップに意欲的で、希望の外部研修に月1回程度参加している。管理者は介護の質の向上を目指し、現場での体験について職員に助言している	○	熱心に研修受講ができるよう取り組んでいるホームであるが、認知症介護実践者研修への参加等、今後も、さらに積極的にスキルアップに向け取り組みたいと考えている。更なる研修受講の場の確保とともに、伝達研修も含め、職員の高質の向上に向けた取組みを今後も期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム連絡協議会や同業者との合同研修会や親睦会に管理者・職員共に参加している。法人全体の会議で参加した報告を行い、法人本部からはネットワークを広げるよう奨励されている。看取りについての学習をするため、経験のあるホームを見学に行ったり、他施設からの見学に来られることもある。交流のあった施設とは電話やメールで日常的に情報交換しており、今後も継続したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時のご案内を作成し、安心して入居できるよう説明している。入居希望があれば見学に来て頂いているが、直接入居もある。ご家族が説明し納得してご入居頂いているが、興奮があらわれる場合はもっとも強い時間帯にご家族に付き添いをお願いしたり、顔馴染みの方に訪問して頂いている。ご入居者の馴染みの物等を持ってきて頂き安心していただける環境作りに取り組んでいるが、「家が一番良い」というお気持ちを理解し、ご入居者に寄り添っている。今後もご家族・ご本人と相談しながら、馴染みながらご入居できるよう支援したいと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話の中や、一緒に家事・炊事をする中で、家事、昔の話(生活・地域の様子等)、毛糸編み等を教えて頂いている。職員も、ご利用者の得意分野のことを、積極的に「教えてください」とお願いするように努めている。また、ご入居者同士、編物の糸の立て方・繋ぎ方を教えあったりされており、互いに支えあっておられる姿に職員は感動している。職員があたりまえに思うケアに対しても「ありがとう」「兄ちゃん、やさしかねえ」などと励まされている。今後も職員は笑顔でご入居者全員が過ごせるよう寄り添っていきたくと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者と居室でゆっくりお話ししたり、入浴介助時、手作業等の時に観察しながらご入居者の希望を把握するよう努めており、把握が難しい方には生活歴・生活習慣・趣味を把握し、行動・表情の背景を推察している。病院では拘束着を着て寝たきり状態であられたご入居者が、ホームで自由に過ごして頂くうちに、半年で歩行できるようになり、落ち着いたこともあり、ご本人の望む暮らしを把握し、あきらめない支援を続けている。	○	今後もご入居者に寄り添い、生活を築いている主役になれるよう「通院できるようになりたい」等の行動の希望から、さらに真のご希望を聞いていきたいと考えており、この取組みに期待していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の一部を利用し、情報収集、アセスメントを行っている。課題・目標は個別・具体的に地域で暮らす視点も入っている。計画の表現もご本人・ご家族の立場に立ち、いわれた言葉や易しい単語に置き換えている。計画の作成にあたってはご本人とも話し合い、ご家族の気づきや意見を取り入れ、職員全員で話し合い、必要時には医師や包括センター職員、他ホームの看護師の意見も踏まえながら行っている。現在行っているケアについて担当職員が主になって手順書を作っているが、個別の手順は口頭で伝えてあり、ポイントのみ書かれているものもある。	○	全てのご入居者について、個別介護手順書を作成していきたいと考えており、ケアの標準化のためにも、職員で、日々のケアを見つめ、ご本人ができること・介助していることを手順書におとしていかれることを期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの時期が介護計画に明記されていて、全ご入居者について、月に1回ケアカンファレンスで介護計画の見直しを行っている。ご本人・ご家族の要望や状態に変化が生じた場合には、随時、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の医療法人と連携が取れており、ホーム内に看護師もいる為、病気の早期発見や、早期治療に結び付けられている。ご入居者などの要望に応じて、主治医と相談し、脳梗塞の方も短期入院ですんだり、入院中はお見舞いに伺い病院側と情報交換を行う中で、早期退院につなげたこともある。帰宅願望のある方には職員同伴で自宅で過ごして頂いたこともある。地域の方から認知症の相談を受け、管理者が地域の学習会のときグループホームの説明をするなど多機能性を活かした支援を行っている。	○	地域の方やデイサービスご利用の方からショートステイのご希望もあり、2年後、市からの認可を受けて取り組みたいと考えている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望でホームの協力病院で受療して頂いており、歯科、内科は月に2回往診して頂いている。往診前にバイタル・特記事項等をファックス送信し、状態を見て頂いており、全医師と相談できている。ご入居者の中には病院看護師と連携し、職員がバス停まで付き添い、かかりつけ病院の巡回バスに乗り、月曜～土曜まで物理療法のため一人で通院している方もおられる。専門医等や頻度・時間によってはご家族に通院介助を依頼する時もあるが、受診結果はお聞きして把握しており、職員が通院介助を行った時変化があればご家族に速やかにご報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に看取りの方針を綴じてあり契約時に説明している。ご家族によっては「その時にならないと解りません」と言われる方もおられるが、ご希望をその都度お聞きし、終末期における対応について繰り返し話し合いをしている。看取りを行った経験から協力医療機関医師・他専門職等関係者、及び職員と話し合いはできており、今後もご入居者のご希望にそえるよう支援したいと考えている。	○	重度化や終末期についてはご家族の意向も変化することがある為、お気持ちに寄り添いながら、その都度ご希望を伺い、状況に応じて、お一人お一人個別に方針を決め、対応していきたいと考えており、今後も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、必要に応じ方言を使う場合もあるが、目上の方に対する尊敬の念を持った言動に気を配っている。排泄後の処理や入浴などの誘導等の介助時は、ご利用者の自尊心、羞恥心に配慮をしたさりげない援助を行っている。申し送りは入居者が数名居られるリビング近くで行われているが、ご入居者のお名前をイニシャルで申し送るなど、個人情報の管理についても気を配り、書類やメモは細かく破って廃棄し、来訪者の前で、ご利用者の事を話さないよう情報漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、ご入居者にご希望をお尋ねし、好きな生活スタイルで過ごして頂いている。ご希望を表現されない方には、散歩を薦めたり、お好きな所へ外出をお薦めするなど、毎日の生活を楽しんでいただいている。ご本人のペースにあわせ、動作に時間がかかる方でもペースを保ちながら意欲をそこなわないよう支援している。	○	前ホームは、徒歩で買物に行ける場所に店があったが、現在のホームは近くに店が無く、買い物希望に、すぐに対応できない場合もある。地域の中に、移動販売に来られる車はあるとのこと、まず職員が顔馴染みとなり、ホームに来ていただけるよう働きかけたりするなど、更に、ご入居者のご希望に応じられるような取り組みを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の宅配業者に献立・材料を依頼しているが、月に2回は宅配を休み、ご入居者のリクエストで、煮物、ちゃんぽん、炊き込みご飯等、好きな物が食べられるように努めている。おやつは饅頭作りや食材の皮むき・根切り等の下ごしらえや味見、盛り付け、テーブル拭き、下膳を手伝って頂きお力を発揮して頂いている。職員も一緒に食卓につき、必要な介助を行いながらも楽しい雰囲気を作っている。菜園で取れた大根やえんどう豆、等を料理に活用したり、旬の食材を取り入れたり、誕生日には回転寿司の外食に出かけ楽しい食事が取れるように努めている。	○	食事を作る過程の中で、もう少しご入居者のお力が発揮できる可能性が残されている為、出来そうなことへの支援について今後も検討してみたいか。ご入居者が長年培ってきた主婦としてのお力が、更に発揮できることを期待していきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中に入浴したいというご入居者のご希望から、週4回、10時～15時30分くらいの間に皆さん入っておられる。体調に配慮しながらも、ご利用者の好みに合わせた湯かげん、時間に入れるようにすると共に、ゆず湯・菖蒲湯などの季節に応じた入浴を楽しめるよう工夫している。時折、併設のデイサービスの広い浴室を使う事もある。羞恥心にも配慮し、個々に応じて、職員がさりげなく見守るなど、安心した入浴ができる支援を続けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	牛乳瓶の片付け、おやつのコップの片付け、グッピーの餌やりなど、得意な場面でお力を発揮していただいているが、まだまだお手伝い感覚のものもあり、ご本人の役割とは言い難いものもある。楽しみごと、気分転換として、ホームで行われている生け花教室への参加や編み物をされる方もおられ、お一人お一人の生活歴・趣味・得意なことを活かした暮らしができるよう取り組んでいる。	○	ご本人の役割を根付かせることにより、ご入居者がホームの主人公であるという意識をもって頂けるようになると思われる。ご本人にとっても安心した場所となるためにも、お一人お一人が役割を持ち、輝く場面を作る支援を今後も期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	今までの生活習慣を把握し、よく話題にでる公園や以前あった家、買い物や散歩等、馴染みの所へ行けるよう取り組んでいる。外出の日や時間帯、行き先、どなたをお連れするのか等、ホームの都合で決めるのではなく、ご利用者にお聞きして、現在の関心事などを踏まえて気持ちを察して対応しているが、外出の機会が多いとは言えないため、今後は増やしていく事を検討している。	○	ご入居者は外出を好まれ、ドライブの時に立ち寄ると、地名が出てきて表情が生き活きとなっていくため、4月からは日勤職員を増やし、戸外で過ごしていただく機会を増やしていきたいと考えており、この取組みに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は20時～7時30分までは防犯上施錠しているが、それ以外はどの出入り口も自由に出入りできる。建物の構造上、職員がホーム内を見渡せるようになっており、カーブミラーも取り付け、2階の階段の降り口にはセンサーを設置している。職員同士声をかけあったり、ご利用者毎の落ち着かれなくなる時間帯や傾向、原因を予め把握し、見守りなどを行っている。また併設のデイサービスの職員や、ご近所の方々に、ご入居者一人での外出の見守り、連絡の協力依頼をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練は、その日の勤務者とご入居者、デイサービス職員、消防署と夜間を想定し行っている。災害時の協力体制としては、自治会長とセコムに連絡が取れるようにして、地域の方へは避難場所の提供や避難後の見守りをお願いしている。災害発生に備えた備品の準備は特に行っていない。	○	いざと言う時のために、災害発生時の備品に関しては、何をどれだけ準備するか母体の医療法人や地域の方々とも検討をし、準備していかれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の好みや馴染みのものを把握し、ご飯の固さを好みに合わせたり、ご飯にかげず別皿に盛ったり、副食ばかり残される方に見た目を考えた丼物にする、飲み物はコーヒー、紅茶、ジュースなど種類を選べるようにする等、ご本人にとって美味しく食べられる対応を行っている。食事量については1200～1500カロリーを目安にして業者の栄養士がバランスよく献立を立ており、摂取量を記録している。水分量についてはコップで目算し必要量がとられているか把握している。定期的に体重測定を行い血液検査の結果と共に医師から助言を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅地の静かな環境の中、夏の夜の花火を見るのに最適なソファが外の入り口に置かれ楽しんで頂いている。玄関やテーブルには生け花教室で季節の花を飾ったり、掲示物を飾っている。対面キッチンのご入居者の顔が見える設計で、ご入居者も職員が見え安心して頂いている。リビングの家具は少なめにし、くつろげるソファはご入居者の井戸端会議の憩いの場になっている。日当たりの良い窓にはレースのカーテンで調節し、窓を開け換気に気を配り、必要に応じ換気扇を回したり加湿器をつけ快適な環境を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は防災の物をホームで準備しているが、ご入居時に箆笥、テレビ、ご家族の遺影、位牌、写真、人形など馴染みのものを持ってきていただき、ご家族と一緒にご本人が使いやすいように模様替えをさせていただいている。部屋の前の表札はご本人の顔写真つきであり、担当職員名も書かれ、安心して居心地良く過ごしていただけるような居室作りの支援を続けている。		